

学力向上に効果のある取組事例

別府市立緑丘小学校

①「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」に向けた取組

取組の具体①: チェックテストを核とした組織的取組

【取組内容】

(1) チェックテスト

- ・チェックテスト後に学習内容の定着状況を確認し、授業時の再指導、宿題での指導、補充学習（みどりタイム）、長期休業時の課題としての取組等を実施した。

- ・2、3学期始チェックテストでは、実施前までの指導・支援の効果や定着状況を再確認した。

※チェックテストの実施にあたり

- ・各学期末まとめテスト（低学年：国算、中高学年：国算理）を行う。
- ・R6は「目標点80を超えた児童数比が「知識・技能」では学級の70%以上、「思考・判断・表現」では学級の60%以上」を目標に実施している。

(2) その他の取組

- ・チェックテストに関する目標や取組は4点セットに明示し、各教職員の目標管理シートとも連動させる。
- ・「家庭学習の手引き」を利用し、保護者との連携を図り、家庭学習の質を高めるとともに、児童の自発的計画に基づく取組につなげる。
- ・補充学習（みどりタイム）を週1回実施する。
- ・授業改善として、国語、算数、理科において「意見を交流し、共感的人間関係を育む時間を設定した授業」を毎時間実践することを目指している。
- ・チェックテスト用データを教務主任が管理。学級や学校の目標達成状況、得点分布等を確認して指導・支援に活かすようにしている。

【1年間の取組の流れ】

○1学期末チェックテスト

（1学期学習内容の定着状況の確認）

↓ 達成状況、職員取組状況確認

○2学期末チェックテスト

（2学期学習内容の定着状況の確認）

↓ 達成状況、職員取組状況確認

○3学期末チェックテスト

（3学期学習内容の定着状況の確認）

↓ 達成状況、職員取組状況確認

次年度1学期始チェックテスト

取組の具体②: チェックテストの分析を学年の取組につなぐ

【チェックテストの結果と4点セットの評価および学力向上プランの達成指標との連動】

(1) チェックテストの結果を学年ごとに出し、そこから全校結果を導き、4点セットの評価につなげる。

① 本年度1学期のチェックテスト（知・技）の結果（学力向上プランの達成指標）

結果 目標得点達成児童の割合が70%を超えた教科数は25中17である。
達成率は、85%で、評価はAである。

② 本年度1学期のチェックテスト（思考・判断・表現）の結果

結果 目標得点達成児童の割合が60%を超えた教科数は25中17である。
達成率は、85%で、評価はAである。

③ 以上の結果・分析から学校全体の取組を検討する。

「思考・判断・表現」の達成率は、85%であることから、「知識・技能」同様、ほぼ定着していると考えられる。

しかし、国語科では、10教科中4教科で60%達成ができていないことから、「知識・技能」同様、読む力の育成が喫緊の課題となる。このことに対しては、各学年の見直しから、課題点を明らかにし改善するための取組を行う必要がある。

学校全体として、低くなっている要因の1つとして、知っている知識を自分なりに考え表現がうまくできていないことが考えられる。「思考・判断・表現」の不足を補うために、今年度は4点セットには『学校行事後や授業の振り返りの場面で、自分の思いを表現できるように振り返りの方法を工夫する。（5～7月）』を設定した。

振り返りの視点や合言葉を研修で共有したこともあり、教職員アンケートでの達成率は、93.8%である。このことから、授業改善は進んでいるが、それが、個人レベルでの「思考・判断・表現」力の育成につなげるには、さらなる改善が必要である。

「知識・技能」にかける授業時間数と、「思考・判断・表現」にかける授業時間数のバランスも含めて、今後校内研究・研修を通して改善していく必要があると考える。

(2)全校分析から学年分析へ(6年生の例)

① 本年度(例:6年生)のチェックテストと全国学力状況調査の結果分析と今後の取組について

1学期末のチェックテスト達成割合

(国語)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	2.0%	4.0%	14.0%	80.0%	80.0%
思考・判断・表現	2.0%	2.0%	4.0%	12.0%	80.0%	80.0%

(算数)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	2.0%	4.1%	22.4%	71.4%	71.4%
思考・判断・表現	0%	14.3%	12.2%	16.3%	57.1%	57.1%

(理科)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	0%	4.2%	16.7%	79.2%	79.2%
思考・判断・表現	0%	0%	4.2%	10.4%	85.4%	85.4%

大分県学力定着状況調査結果

【6年生】	国語			算数			理科		
	正答率 (%)	知識 技能	思考 判断 表現	正答率 (%)	知識 技能	思考 判断 表現	正答率 (%)	知識 技能	思考 判断 表現
学校(A)	74.0	82.5	70.6	68.0	75.3	57.4	67.0	68.3	65.8
大分県(B)	69.0	78.5	64.9	60.0	68.2	48.9	60.0	59.0	60.7
全国(C)	66.8	74.5	63.8	58.0	65.5	48.3	57.1	55.3	58.7
差(A-B)	5.0	4.0	5.7	3.0	2.3	5.0	7.0	9.3	5.1
差(A-C)	7.2	8.0	6.8	2.6	2.0	4.3	9.9	13.0	7.1

①チェックテスト(知識・技能)について

目標得点達成児童の割合が、国語80.0%、算数71.4%、理科79.2%で、達成目標の70%をこえている。授業やみどりタイムでは、定着していない基礎・基本的な既習事項の復習に特化し取りませたり、ドリル学習およびやり直しを着実にこなしたりすることにより成果を上げたと考えられる。今後も基礎基本の学習を丁寧に行い、教え合いややり直し・家庭学習における復習など各単元の内容を定着させるような取り組みを行っていく。

②チェックテスト(思考・判断・表現)について

目標得点達成児童の割合が、国語71.4%、算数57.1%、理科85.4%で、国語、理科は達成目標の60%をこえている。算数においては、数字が整数や少数文章問題で立式の仕方や立式における意味をよく理解していない児童が多い。その立式が何を求めるものなのか理解が不十分である。よって課題解決型授業を進めた上で、問題を視覚化(関係図や線分図、表など)する能力も向上させたい。そのために、教師が板書で位置付けて強調したり、児童間で学び合いの時間を取ったりすることで身につけさせていきたい。

③全国学力状況調査の分析

知識・技能においては国語(+4P)算数(+2.3P)理科(+9.3P)、思考・判断・表現においては国語(+5.7P)算数(+5.0P)理科(+5.1P)と国語、算数、理科ともに県平均を上回った。また、全国平均でも知識・技能は国語(+8P)算数(+2.0P)理科(+13P)、思考・判断・表現は国語(+8.0P)算数(+2.0P)理科(+7.1P)と国語、算数、理科ともに全国平均を上回った。全国正答率を下回っていた問題は、【国語】読むことの問題において、特に「事実と感想、意見などの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成をとらえて要旨を把握することができるかどうかをみる」問題が(-1.3P)であった。【算数】図形の問題において、特に「角の大きさについて理解しているかどうかをみる」問題が(-1.3P)であった。よって国語では、説明的文章を読む際にはこれまでの学習内容と結びつけながら文章校正を考える時間を確保していく。算数では、今回のテストで課題があった図形や無解答率が高かった

分数の内容を中心に授業の始めのミニテストで復習をしていく。